

Honda と IDEMITSU のライダー育成プロジェクト 10周年記念イベントを日本グランプリで開催

Honda（取締役 代表執行役社長：三部 敏宏）と出光興産株式会社（代表取締役社長：木藤 俊一以下、出光興産）は、「世界トップレベルで活躍できるアジア人ライダーの発掘・育成とアジア地域におけるモータースポーツ文化の醸成」を目的に展開しているライダー育成プロジェクトが、今年で10周年を迎えるにあたり、「2022 FIM[※] MotoGP 世界選手権シリーズ 第16戦 MOTUL 日本グランプリ」が開催されている「モビリティリゾートもてぎ」で記念セレモニーを行いました。

※ FIM とは、Fédération Internationale de Motocyclisme（国際モーターサイクリズム連盟）の略称



出光興産 木藤俊一（左）と Honda 三部敏宏（右）



関係者によるフォトセッション

Honda と出光興産のライダー育成プロジェクトは、2013年に「IDEMITSU Honda Team Asia」のMoto2クラス参戦から始まりました。2016年にMoto2クラスへのステップアップの手段として、「Honda Team Asia」がMoto3クラスに参戦。さらには2017年からは、MotoGP主催者である「Dorna Sports SL.（以下、ドルナ・スポーツ）」が主催する「Idemitsu Asia Talent Cup」も展開し、世界で戦うライダーの輩出に取り組んできました。そして2018年には、Moto2クラスにIDEMITSU Honda Team Asiaから参戦していた中上貴晶選手が、「LCR Honda IDEMITSU」からMotoGPに参戦したことで、最高峰クラスのMotoGPにつながる道筋ができました。

このプロジェクトが10周年をむかえるにあたり、両社にとって母国開催となる日本グランプリの舞台である、モビリティリゾートもてぎのコース上にて記念のセレモニーを開催しました。セレモニーには、LCR Honda IDEMITSUの中上貴晶選手、IDEMITSU Honda Team Asiaの小椋藍選手、ソムキアット・チャントラ選手、Honda Team Asiaのマリオ・アジ選手、古里太陽選手、両チームの指揮をとる青山博一監督のほか、IDEMITSU Honda Team Asiaの参戦開始時の監督である岡田忠之氏、ライダーの高橋裕紀選手も参加。また出光興産からは木藤俊一社長、ドルナ・スポーツのカルメロ・エズペレータ会長に加え、Hondaから社長の三部敏宏も参加し、今後も同活動を通じて、アジア地域におけるモータースポーツ文化の醸成に寄与していく気持ちを共にしました。

■出光興産株式会社 代表取締役社長 木藤 俊一のコメント

「2013年から10年に渡りHondaとともにアジアの若手ライダー育成に携わらせて頂き、チームのオイルのテクニカルアドバイザーを勤めていることを大変光栄に感じています。当初は高橋裕紀選手のMoto2クラス参戦に始まり、2018年からは中上貴晶選手の日本人唯一となるMotoGPクラスへの参戦、本年はAsia Talent Cup出身の小椋藍選手およびソムキアット・チャントラ選手がMoto2クラスで複数回の優勝を果たすなど、本育成プログラムが確実に成果に結びついていることを実感しています。これらは選手および監督、チーム関係者、Honda、ドルナ・スポーツのご尽力とファンの皆様のご声援のおかげです。この場を借りて御礼申し上げます。我々も世界に挑戦し続けるライダーとともに、高き理想と志を掲げ、挑み続けて参ります」

■本田技研工業株式会社 取締役 代表執行役社長 三部 敏宏のコメント

「出光興産とのアジアの若手ライダー育成プロジェクトが今年で10周年を迎えられたことを大変うれしく思っています。MotoGPにチャレンジする若手ライダーの夢を具現化するために、アジア地域各国におけるHondaのレース活動と連動させて展開しているこのプロジェクトはHondaにとって、大変意義のある試みであると思っています。このプロジェクトを永きに渡りサポートしていただいております、出光興産には心より感謝を申し上げます。これからもアジアから、最高峰のMotoGPクラスでより多くのライダーが活躍することによって、これまで以上にモータースポーツが活発化することを切に願っています」